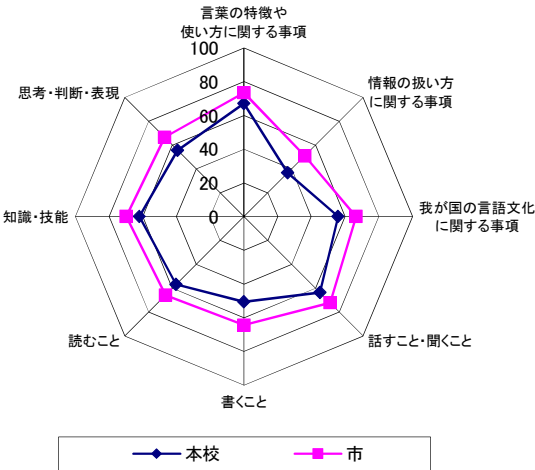


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.1	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	36.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	55.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	63.7	72.3	73.7
	書くこと	50.5	64.3	66.6
	読むこと	56.9	65.8	64.9
観点別	知識・技能	62.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	55.7	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

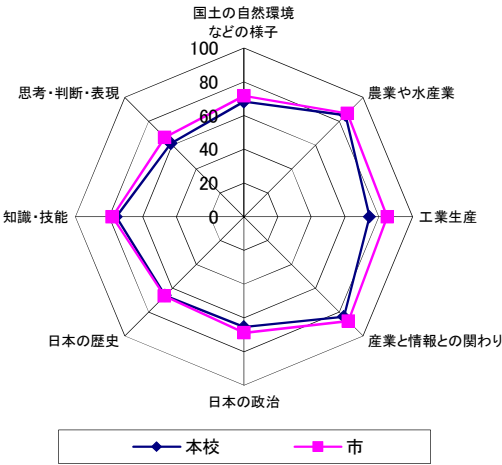
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●市の平均正答率よりも6.4ポイント低い。漢字を読む設問では、市の平均正答率を10.4ポイントも下回るものがあつた。 ○5年生で学習した漢字の書き取りでは、正答率が4.4ポイント上回った設問があつた。 ○三字の熟語の成り立ちについて理解する設問は正答率が高かつた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後とも、基本的な言葉の学習や漢字の練習を行い、確実に定着できるようにしていく。また、児童の実態に応じて、より発展的な学習に取り組めるように、個に応じた指導の充実を図る。 ・文と文とを接続する言葉の学習については、授業等で文章を書く際、どのような使い方をするのかを繰り返し確認したり、振り返る場面を意図的に作ったりすることで、定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	●市の平均正答率よりも14.2ポイント低い。情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いたりする設問での正答率が低かつた。	・文章の情報を整理し、情報を正しく読みとることについて、様々な情報にふれる機会を意図的に設け、読み取ることに慣れるようにする。 ・情報を読み取る際には、自分の考えを文章にし、読むことや書くことを関連付けて指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	●市の平均正答率よりも10.6ポイント低い。語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解を問われる設問において、理解が不十分であつた。	・語句の意味や由来をしっかりと整理することができるよう、辞書で調べるような活動を設けて繰り返し学習することで理解を深めていく。 ・日頃から、読書や音読の時間を設けて、言語文化に興味・関心を持って学習に取り組む環境づくりをしていく。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率よりも8.6ポイント低い。インタビューの内容を聞き取る設問では、話の内容を正しく聞き取り、捉えることが難しく、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを問われる設問の正答率が低かつた。	・発表活動を行う際に、話の内容を正しく捉えて、意図に応じて質問を工夫して考えることができるような指導を充実させることにより、聞くことの力を育成していく。 ・話し合い活動を行う際に、どのような手順で話したらよいか、また相手に自分の考えが明確に伝わるようにするにはどのようにしたらよいかといったことを考えさせるような機会を充実させることにより、話すことの力を育てていく。
書くこと	●市の平均正答率よりも13.8ポイント低い。指定された長さや指定された段落構成で文章を簡単に書く設問の正答率が低い。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く設問は、市の平均正答率よりも14.7ポイント低い。	・日頃から短い文章を書く活動を取り入れ、自分の意見や気持ちを文章化することにより、書く力を養っていく。文字数や段落数などの条件に沿った文章を書く活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れるようにする。
読むこと	●市の平均正答率よりも8.9ポイント低い。説明文の内容など叙述を基に文章の内容を捉えて読み取ることが苦手な傾向がある。	・物語の内容を読み取ることに関しては、登場人物の心情の変化、背景描写、比喩など物語の中にある様々な叙述に気を付けながら丁寧に読み取れるようにしていく。 ・説明文では、段落の構成を考えたり、段落ごとの要旨をまとめたりすることで、筆者の主張が正しく読み取れるよう指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.2	71.6	69.6
	農業や水産業	85.3	86.7	83.7
	工業生産	74.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	83.8	87.7	77.4
	日本の政治	65.4	68.9	71.7
	日本の歴史	66.2	66.7	66.3
観点別	知識・技能	75.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	61.4	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

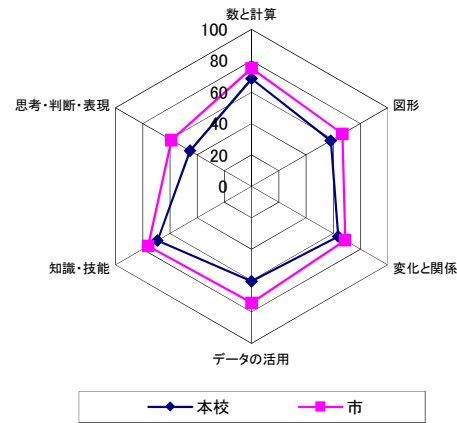
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	●市の平均正答率よりも3.4ポイント低い。 ●オーストラリアの位置と国旗の理解における平均正答率は市の平均を10.5ポイント下回っている。 ○日本の周辺の海洋名の理解の設問では、市の平均正答率を3.9ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の国土についての理解は出来ているので継続して指導を行う。世界の主な国々の学習をする際には、資料集や地図帳だけではなく地球儀を活用し、場所、地名、地形、国旗などを関連付けて確認していく。定期的に復習をしながら、習熟を図っていく。
農業や水産業	●市の平均正答率よりも1.4ポイント低い。 ○米の生産工程の理解では、市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ●米の生産の盛んな地域、水産物の流通の工夫についての設問の正答率が市より低い。特に水産物の流通の工夫に関する設問は、市の平均正答率を2.9ポイント下回っている。	・社会の問題全体を通して資料判断の設問の平均正答率が低い。このことから、資料を見る際には資料のどの部分に注目したらよいのかを考えさせてから、読み取りをさせていく。また、米や水産物が、どのような流通を経て食卓に来ているのかを考えさせる際には、自分達の生活の中の身近な物として興味を持たせて取り組ませる。
工業生産	●市の平均正答率よりも10.5ポイント低い。 ●自動車の製造工程や工業製品の分類の設問の平均正答率は市の平均より低い。特に日本の工業の特色について表現する設問では、市の平均正答率を17.5ポイント下回っている。	・工業生産では、特に難しい言葉や漢字が多いので、重要語句を正しく理解できるように、復習を行っていく。日本の工業を取り扱う際には、時事問題やニュースなどから話題を広げ、自分達の生活に身近なものとして、実感を持たせながら取り組ませていきたい。
産業と情報との関わり	●市の平均正答率よりも3.9ポイント低い。 ○様々なメディアの特徴を理解する設問では、市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ●情報発信と受信の注意点について考える設問では8.5ポイント、沖縄県での自然環境を守る取り組みについて考える設問では7.2ポイント市の平均正答率を下回っている。	・普段の学習活動の中で、自分の考えを書いていく活動を増やしていくことにより、資料を読み取り、自分の考えを記述する力を育成する。自分で考えるのが苦手な児童については、話し合い活動の中で、友達の意見を参考にしながら自分の考えを表現する場を設定し、自分の考えを文章で表現することを日常化させていく。
日本の政治	●市の平均正答率よりも3.5ポイント低い。 ○内閣の働きについての理解についての設問は、市の平均正答率を10.5ポイント上回っている。 ●天皇の地位、国民の義務を理解する設問は市の平均正答率を下回った。特に国民と国会と内閣の関係理解をもとに図を読み取る設問は市の平均正答率を12ポイント下回った。	・資料判断の問題の平均正答率が低い。資料のどの部分に注目すべきかについて考えさせながら取り組ませていく。また、難しい語句が多く、政治については、身近に感じられていないことが伺えるので、時事問題を取り上げながら、政治についての興味関心を高めていく。また、朝の学習やAIDリルを活用し、定期的に復習することで、知識を確実に定着させていく。
日本の歴史	●市の平均正答率よりも0.5ポイント低い。 ○元寇における防塁についての表現、鉄砲の伝来の理解、江戸幕府の鎖国の理解では、市の平均正答率を上回っている。 ●縄文時代の生活の様子についての理解、源平の戦いの理解のものと資料判断、書院造の部屋の特徴の理解は、市の平均正答率を下回った。	・資料集、端末を使い、写真や映像、実物を見せながら、その時代の文化や背景を考えられるような場を設定し、どんな時代であったかを自分なりにまとめ表現し、理解を深められるような指導を引き続き行う。 ・時代が古くなるにつれて、知識の定着が不十分になるので、定期的に復習を取り入れ、知識を確実に定着させていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.5	75.1	75.8
	図形	58.2	66.8	68.3
	変化と関係	63.7	68.8	65.0
	データの活用	60.5	74.1	63.6
観点別	知識・技能	69.1	76.1	75.8
	思考・判断・表現	45.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

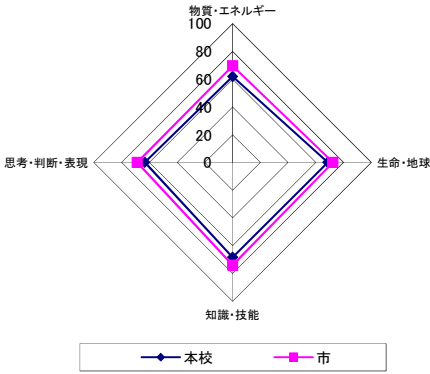
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●市の平均正答率より6.6ポイント低い。 ○小数どうしのかけ算の設問は、市の平均正答率より1.5ポイント高い。 ●小数どうしのわり算の設問は、市の平均正答率より11.3ポイント低い。 ●問題文からそれぞれの数量の関係を正しく表した図を選ぶ設問では、市の平均正答率より15.6ポイント低い。 ●図を使って何倍かを求めるための正しい式を選ぶ設問は、市の平均正答率より14.2ポイント低い。	・小数のかけ算は、桁数の多い問題でも正確に計算できる力がついてきているが、小数のわり算を苦手としている児童が一定数いる。朝の学習を活用して、商の立て方や小数点の処理の仕方などの、計算の基本的なきまりを再確認させることにより、基礎基本の定着を図る。 ・数量関係を正確に読み取るために、図式化してから立式することを重点的に指導し、習熟を図っていく。
図形	●市の平均正答率より8.6ポイント低い。 ○合同な三角形を作図する設問では、正答率が97.1%と高く、市の平均を8.8ポイント上回っている。 ●三角形の面積を求めるための正しい式を選ぶ設問では、市の平均正答率より26.7ポイント低い。 ●角柱の体積を求める設問は、市の平均正答率より25ポイント低い。	・図形の面積の公式や図形の性質を確認できる教材を活用し、基礎的な知識の定着を図る。底辺や高さが捉えにくい問題などを重点的に取り扱うことで、発展的な問題でも自力解決できるよう、補充プリントなどで理解を深める指導を継続していく。
変化と関係	●市の平均正答率より5.1ポイント低い。 ●表をもとに面積と数の割合を求めて、混み具合を求める設問は、市の平均正答率より8.7ポイント低い。 ●基準量と比較量から割合を求める設問は、市の平均正答率より3.8ポイント低い。	・基準量や比較量を正確に捉えることが苦手な児童が、一定数いるので、図式化しながら解決の見通しが立てられるよう、指導を継続していく。生活場面と関連付けて、割合の意味を深く考える場面を意図的に設定することにより、基礎的内容の定着を図っていく。
データの活用	●市の平均正答率より13.6ポイント低い。 ○ドットプロットのデータを度数分布表に表す設問は、市の平均正答率をわずかに下回っているものの、85.3%と高い数値となっている。 ●ドットプロットから最頻値を求める設問は、市の平均正答率より19.1ポイント低い。 ●4日間に走った平均から、2週間に走る距離を求める設問は、市の平均正答率よりも19.1ポイント低い。 - また、無回答の児童の割合は32.4%で、市の平均より23.5ポイント高い。	・代表値の意味や求め方について基本事項を確認し、情報を正しく読みとれるように支援していく。 ・データの見方・活用は、他の領域より正答率が低い傾向がある。基礎的な内容を定着させるよう、個に応じた支援を今後も継続していく。 ・記述問題では、適切な説明の仕方が思い浮かばないためか、無回答になる児童の割合が高い。題意にそって自分の考えを順序立てて説明する活動を、様々な場面に取り入れることにより、習熟を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.0	69.5	65.2
	生命・地球	68.6	72.3	70.1
観点別	知識・技能	68.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	63.2	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率より7.5ポイント低い。 ○グラフを読み、食塩とミョウバンの水への溶け方について指摘する設問は、市の平均正答率よりも7.3ポイント高い。 ○乾電池を2個使って電磁石のはたらきを強くするためのつなぎ方を考える設問は、市の平均正答率よりも3ポイント高い。 ●空気を入れたびんの中の気体の体積の割合について求める設問は、市の平均正答率よりも25.8ポイント低い。 ●鉄やアルミニウムは、うすい塩酸に溶けるかどうかを問う設問は、市の平均正答率よりも20.9ポイント低い。	・実験や観察をする際には、得られた実験の結果からそのようになった根拠を理解し、自分で考察できるようにしていく。科学的事象が起こる理由について、説明する機会を多く設けることにより、さらなる知識の定着を図っていく。 ・苦手な傾向にある単元や内容については、プリントやAIDリルで復習の時間を確保し、反復学習をすることにより知識の定着を図っていく。
生命・地球	●市の平均正答率よりも3.7ポイント低い。 ○流れる水のはたらきについて、仮説が正しいといえるための結果を推測する設問は、市の平均正答率よりも6ポイント高い。 ●山の雨量と下流の川の水位の関係をグラフから読み取る設問は、市の平均正答率よりも14.6ポイント低い。 ●植物のつくりとはたらきで、予想が正しかった場合の根の断面を予想する設問は、市の平均正答率よりも13.1ポイント低い。	・流れる水のはたらきの学習では、インターネットの情報や映像資料を活用し、グラフを読み取る学習に取り組むことにより、理解を深めていく。また、グラフから得られたことについて、ノートに記述したり友達と意見を交換したりする活動を取り入れることで、深い学びへとつなげていく。 ・植物のつくりとはたらきの学習では、実験をする際に自分なりに予想を立てて実験をし、結果と考察を丁寧にまとめるようにする。また、理科の学びを生活の中に生かすことができるように、これまでの生活経験と結びつけて考えるような授業展開を工夫していく。